

テサロニケ人への前の書

第一章

一パウロ、シルワノ、テモテ、書を父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教會に贈る。願くは恩恵と平安と汝らに在らんことを。

二われら祈のときに、汝らを憶えて、常に汝ら衆人のために神に感謝す。三これ汝らが信仰のはたらき、

愛の勞苦、主イエス・キリストに對する望の忍耐を、我らの父なる神の前に絶えず念ふに因りてなり。四神に愛

せらるる兄弟よ、また汝らの選ばれたることを知るに因りてなり。五それ我らの福音の汝らに至りしは、言にの

み由らず、能力と聖靈と大なる確信とに由れり。且われらが汝らの中にありて汝らの爲に如何なる行爲をなしし

かは、汝らの知る所なり。六斯て汝らは、大なる患難のうちにも、聖靈による喜びをもて御言をうけ、我ら及び

主に效ふ者となり、七而してマケドニヤ及びアカヤに在る凡ての信者の模範となれり。八それは主のことは汝等

より出でて營にマケドニヤ及びアカヤに響きしのみならず、神に對する汝らの信仰のことは諸方に弘まりたるな

り。然れば之に就きては、何をも語るに及ばず。九人々、親しく我らが汝らの中に入りし狀を告げ、また汝らが

偶像を棄てて神に歸し、活ける眞の神に事へ、一〇神の死人の中より甦へらせ給ひし御子、すなはち我らを來らん

一〇 九 八七 六 五 四 三二

イ 撒後一・一
口 哥後一・一九を見よ
ハ 徒一六・二を見よ
ニ 撒後一・一 (徒一七
ホ 羅一・七を見よ
ヘ 羅一・九を見よ
ト 撒後一・三 羅一・八
ル 加一・四を見よ
ヲ 撒後二・二三
ワ 撒後一・二〇
カ 哥後二・二二を見よ
コ 撒後一・一
チ 撒後一・一 (約六
リ 撒前三・六 撒後一
ヲ 撒後一・二〇
レ 徒一八・二二を見よ
ム 彼前五・三を見よ
五 二二二
ソ 提後四・二を見よ
ツ 徒一七・五一
ネ 撒後三・七
ナ 羅一五・二六を見よ
ラ 徒一八・二二を見よ
オ 約壹五・二二 (哥前
ウ 撒後三・一 (西三
ヤ 太一六・一六を見よ
マ 徒二・二四

ケ太三・七 (撒前二) を見よ
 ア一六・五・九
 ア一・三〇 徒一四
 ア五
 コ太一六・二七、二八 サ羅一・一を見よ
 を見よ 哥前二・七 キ徒一七・一―九を見よ
 エ撒後一・一〇
 ヲ徒一六・二二―二四 ヌ (撒後二・二二)
 ヲ撒前四・七
 ミ (哥後四・二二)
 シ加二・七を見よ
 エ羅八・二を見よ
 ヒ加一・一〇を見よ
 モ徒前四・一一を見よ
 セ徒二〇・三三を見よ
 (哥後四・五)
 (徒後二・三三)
 ス撒前一・一〇 羅一
 ・九を見よ
 イ哥前九・一、二を見よ
 ホ撒前二・二
 (約三・二六)
 ト撒後三・八 (腓四・
 ル撒前一・五を見よ
 (徒後二・二四)
 一六)
 二 (撒前二・二一 加四
 九・四、五)
 又撒前一・五 (哥後一
 ・二二)
 ヲ撒前四・一四を見よ
 (撒前二・七)
 ヲ徒前五・一〇 (哥後
 四・六)
 カ撒前五・二四 撒後
 二・一四 羅八・二八
 ツ (加四・二四) 太一〇
 ・二〇を見よ
 ヲ弟四・一を見よ
 ヲ約參六
 タ (撒前五・一四)
 レ路一六・二八を見よ
 撒前四・六
 ソ羅一・八を見よ
 (加四・二四) 太一〇
 ・二〇を見よ

とする怒より救ひ出すイエスの、天より降りたまふを待ち望むことを告ぐればなり。

第二章

一 兄弟よ、我らの汝らに到りしことの空しからざりしは、汝ら自ら知る。二 前に我らは汝らの知る

ごとく、ピリピにて苦難と侮辱とを受けたれど、我らの神に頼りて大なる紛争のうち、憚らず

神の福音を汝らに語れり。三 我らの勸は、迷より出でず、汚穢より出でず、詭計を用ひず、四 神に嘉せられて

福音を委ねられたる者なれば、人を喜ばせんとせず、我らの心を鑿給ふ神を喜ばせ奉つらんとして語るなり。

五 我らは汝らの知ることく何時にても諂諛の言を用ひず、事によせて慳貪をなさず (神これを證し給ふ) 六 キリ

ストの使徒として重んぜらるべき者なれども、汝らにも他の者にも人よりは譽を求めず、七 汝らの中にありて優

しきこと、母の己が子を育てやしなふ如くなりき。八 斯く我らは汝らを戀ひ慕ひ、なんぢらは我らの愛する者と

なりたれば、吾に神の福音のみならず、我らの生命をも與へんと願へり。九 兄弟よ、なんぢらは我らの勞と苦難

とを記憶す、われらは汝らの中の一人をも累はすまじとて、夜晝工をなし、勞しつつ福音を宣傳へたり。一〇 また

信じたる汝等にもかひて、如何に潔く正しく、責むべき所なく行ひしかは、汝らも證し、神も證し給ふなり。

二 汝らは知る、我らが父のその子に對することく各人に對し、三 御國と榮光とに招きたまふ神の心に適ひて歩む

べきことを勧め、また勵し、また諭したるを。

一三 斯てなほ我ら神に感謝して已まざるは、汝らが神の言を我らより聞きし時、これを人の言とせず、神の言

一四 として受けし事なり。これは誠に神の言にして、汝ら信する者のうちに働くなり。一四 兄弟よ、汝らはユダヤに於けるキリスト・イエスにある神の教會に效ふ者となれり、彼らのユダヤ人に苦しめられたる如く、汝らも己が國人に苦しめられたるなり。一五 ユダヤ人は主イエスをも預言者をも殺し、我らを追ひ出し、一六 我らが異邦人に語りて救を得させんとするを拒み、神を悦ばせず、かつ萬民に逆ひ、斯して常に己が罪を充すなり。而して神の怒は、かれらに臨みてその極に至れり。

一七 兄弟よ、われら心は離れねど、顔にて暫時なんぢらと離れ居れば、汝らの顔を見んことを愈々切に願ひて、一八(我パウロは一度ならず再度までも)なんぢらに到らんと爲たれど、サタンに妨げられたり。一九 我らの主イエスの來り給ふとき、御前における我らの希望、また喜悅、また誇の冠冕は誰ぞ、汝らならずや。二〇 實に汝らは我らの光榮、我らの喜悅なり。

第三章

一 この故に、もはや忍ぶこと能はず、我等のみアテネに留ることに決し、ニキリストの福音において神の役者たる我らの兄弟テモテを汝らに遣せり。これは汝らを堅うし、また信仰につきて勧め、三 この患難によりて動さるる者の無からん爲なり。患難に遭ふことの我らに定りたるは、汝等みづから知る所なり。四 我らが患難に遭ふべきことは、汝らと偕に在りしとき預じめ告げたるが、今果して汝らの知ることく然か成れり。五 この故に最早われ忍ぶこと能はず、試むる者の汝らを試みて、我らの勞の空しくならんことを恐れ、

イ(來四・二二) へ撒後一・四、五(撒
口加一・二二を見よ 前二・四(徒一七・五
ハ哥前二〇・三二を見よ ト路二四・二〇を見よ
ヨ(哥前七・一七) チ太五・一二を見よ
ニ撒前一・六 リ哥前一〇・三三
ホ(來一〇・三三、三 又徒九・二三、二三、
四) 四五、五〇、一四、
ニ、五、一九、一七、
五、二三、一八、
二、二二、二七、
二五・二七、
ル創一五・二六、但八
レ太四・一〇を見よ
ソ(羅一・二三、一五、
二三)
ワ哥前五・三を見よ
カ撒前三・一〇
ヨ路四・二六
タ(羅一五・二二)
レ太四・一〇を見よ
ソ(羅一・二三、一五、
二三)
ツ撒前三・二三、四、
一五、五・二三 撒
後二・一 彼後一・
一六(彼後三・四)
太一六・二七を見よ
ム徒一七・一五を見よ
ウ哥後一・一を見よ
西一・一
ナ(哥後一・一四)
ノ徒九・二六 及び
一四・二二を見よ
オ撒後三・一〇
ク撒前二・一四を見よ
ヤ撒前三・一
マ太四・三
ケ路二・一六を見よ
(哥後六・二)

フ 撒前三・二
 コ 徒一八・五
 エ 撒前一・三
 テ 哥前一・二を見よ
 ア 哥前一六・一三
 サ 撒前一・二
 キ 提後一・三
 エ (撒後三・五)
 ヒ 群一・九 (撒前四・一、一〇 撒後一・三)
 セ (太二五・三一可八 三・八 撒前四・二六 撒後一・七)
 ト 哥後五・九を見よ
 チ 撒前三・一二を見よ
 リ 哥前六・一八を見よ
 ス 撒前二・一九を見よ
 ニ 撒後三・一 哥後一
 イ 撒前三・一一
 ホ 撒後三・一二
 ロ 路一・六を見よ
 ハ 撒前五・一二 撒後一 弗四・一を見よ
 ト 哥後五・九を見よ
 カ 羅一・二六
 ト 哥後五・九を見よ
 チ 撒前三・一二を見よ
 リ 哥前六・一八を見よ
 ス 撒前二・一九を見よ
 ニ 撒後三・一 哥後一
 イ 撒前三・一一
 ホ 撒後三・一二
 ロ 路一・六を見よ
 ハ 撒前五・一二 撒後一 弗四・一を見よ
 ト 哥後五・九を見よ
 カ 羅一・二六
 ト 哥後五・九を見よ
 チ 撒前三・一二を見よ
 リ 哥前六・一八を見よ
 ス 撒前二・一九を見よ
 ニ 撒後三・一 哥後一
 イ 撒前三・一一
 ホ 撒後三・一二
 ロ 路一・六を見よ
 ハ 撒前五・一二 撒後一 弗四・一を見よ
 ト 哥後五・九を見よ
 カ 羅一・二六

六 なんぢらの信仰を知らんとて人を遣せり。然るに今テモテ汝らより歸りて、汝らの信仰と愛とにつきて喜ばしき音信を聞かせ、又なんぢら常に我らを懇ろに念ひ、我らに逢はんことを切に望み居るは、我らが汝らに逢はんことを望むに等しと告げたるによりて、七 兄弟よ、われらは諸般の苦難と患難との中にも汝らの信仰によりて慰安を得たり。八 汝等もし主に在りて堅く立たば我らは生くるなり。九 汝等につきて我らの神の前によるこぶ大なる喜悅のために如何なる感謝をか神に獻ぐべき。一〇 我らは夜晝祈りて、汝らの顔を見んことと、汝らの信仰の足らぬ所を補はんこととを切に願ふ。

二 願くは我らの父なる神みづからと我らの主なるイエスと、我らを導きて汝らに到らせ給はんことを。三 願くは主、なんぢら相互の愛および凡ての人に對する愛を増し、かつ豊にして、我らが汝らを愛する如くならしめ、三 斯して汝らの心を堅うし、我らの主イエスの、凡ての聖徒と偕に來りたまふ時、われらの父なる神の前に潔くして責むべき所なからしめ給はんことを。

第四章

一 されば兄弟よ、終に我ら主イエスによりて汝らに求め、かつ勸む。なんぢら如何に歩みて神を悦ばすべきかを我等より學びし如く、また歩みをる如くに増々進まんことを。二 我らが主イエスに頼りて如何なる命令を與へしかは、汝らの知る所なり。三 それ神の御旨は、なんぢらの潔からんことにして、即ち淫行をつつしみ、四 各人おのが妻を得て、潔く、かつ貴くし、五 神を知らぬ異邦人のごとく情慾を放縱にすま

六 じきを知り、六 斯る事によりて兄弟を欺き、また掠めざらんことなり。凡て此等のことを行ふ者に主の報し給ふ
 七 は、わが既に汝らに告げ、かつ證せしごとし。七 神の我らを招き給ひしは、汚穢を行はしめん爲にあらす、潔か
 八 らしめん爲なり。八 この故に之を拒む者は人を拒むにあらす、汝らに聖靈を與へたまふ神を拒むなり。

一九 兄弟の愛につきては汝らに書きおくるに及ばず。汝らは互に相愛する事を親しく神に教へられ、一〇 また既
 にマケドニヤ全國に在るすべての兄弟を愛するに因りてなり。然れど兄弟よ、なんぢらに勸む。ますます之を行
 二一 ひ、二 我らが前に命ぜしごとく力めて安靜にし、己の業をなし、手づから働け。二三 これ外の人に對して正しく行
 ひ、また自ら乏しきことなからん爲なり。

二三 兄弟よ、既に眠れる者のことに就きては、汝らの知らざるを好まず、希望なき他の人のごとく歎かざらん
 二四 爲なり。二四 我らの信ずる如く、イエスもし死にて甦へり給ひしならば、神はイエスによりて眠に就きたる者を、
 二五 イエスと共に連れきたり給ふべきなり。二五 われら主の言をもて汝らに言はん、我等のうち主の來りたまふ時に至

二六 るまで生きて存れる者は、既に眠れる者に決して先だたじ。二六 それ主は、號令と御使の長の聲と神のラッパと共
 二七 に、みづから天より降り給はん。その時キリストにある死人まづ甦へり、二七 後に生きて存れる我らは彼らと共に
 二八 雲のうちに取り去られ、空中にて主を迎へ、斯ていつまでも主と偕に居るべし。二八 然れば此等の言をもて互に

相慰めよ。

イ(哥前六・八) 壹三・二四 又(撒前一・七) 五
 口羅一三・四 來一三 ト約一三・三四 及び ル撒前四・一 (弗四・二八)
 四(羅一二・二九) 羅一二・一〇を見よ テ撒後三・一二 ソ徒七・六〇を見よ
 八路一六・二八を見よ チ撒前五・一(哥後九) ヲ彼前四・一五 ツ羅一・二三を見よ
 二彼前一・一五 (一) カ弗四・二八を見よ ネ弗二・一二 一・一二 哥後一二
 本撒前二・三 リ約六・四五 約壹二 (徒一八・三) ナ弗二・三を見よ
 へ羅五・五 哥後一 二七(耶三一・三) ヲ可四・一一を見よ ラ哥前一・五・一八
 二二 加四・六 約 三・三四(三) 夕羅一三・一三 西四 (撒前四・一五) ノ哥前一・五・五二(撒
 前五・一〇) 一〇 哥前一・五・二三を見
 一四(撒後二・一) 一四(一三) 一四・一三
 ヤ猶九 工撒前四・一五を見よ
 マ太二四・三一を見よ テ(但七・一三 徒一・
 ケ撒前三・一一を見よ 九 黙一・一二)
 フ撒後一・七 撒前一 ア哥後一二・二を見よ
 サ約一二・二六を見よ

キ徒一・七
ユ撒前四九
メ路二一・三四を見よ
撒前五・四 彼後三
一〇 歌三・三
一六・一五
シ耶六・二四、八・一
一 結一三・一〇
エ撒後一・九
ヒ約一六・二二を見よ
モ約壹二・八 徒二六
二八を見よ
セ撒前五・二を見よ
ヘ(弗六・二三)
ト弗六・一四を見よ
チ(羅八・二四)
リ弗六・一を見よ
又撒前一・一〇を見よ
ル撒後二・一三、一四
ヲ羅一四・九を見よ
ワ弗四・二九を見よ
カ(哥前一六・二六 羅
一六・六、一二 哥前
一五・二〇)
ヨ來一三・二七を見よ
タ哥前一六・一八を見
よ 撒前五・一七
哥前八・七
(詩一四四・三)
レ可九・五〇を見よ
ソ撒後三・六七、一一
ツ撒後三・一五
ネ賽三五・四
ナ羅一四・一を見よ
ラ哥前一三・四を見よ
ム羅一二・一七を見よ
彼前二・九 (太五・
四四)
ウ羅一二・九 撒前五
・二二 (加六・一〇)
井前四・四
ノ弗六・一八を見よ
オ弗五・二〇
ク(弗四・三〇)
ヤ(哥前一四・三一)
マ(哥前一四・二九 約
壹四・一)
ケ撒前五・一五を見よ

第五章

一 兄弟よ、時と期とに就きては汝らに書きおくるに及ばず。二 汝らは主の日の盗人の夜きたるが如
くに来ることを、自ら詳細に知ればなり。三 人々の平和無事なりと言ふほどに、滅亡にはかに彼ら
の上に来らん、妊める婦に産の苦痛の臨むがごとし、必ず遁るることを得じ。四 されど兄弟よ、汝らは暗に居ら
ざれば、盗人の來るごとく其の日なんぢらに追及くことなし。五 されど兄弟よ、汝らは暗に居ら
ば夜に屬く者にあらず、暗に屬く者にあらず。六 されど他の人のごとく眠るべからず、目を覺して慎むべし。七
眠る者は夜眠り、酒に酔ふ者は夜酔ふなり。八 されど我らは晝に屬く者なれば、信仰と愛との胸當を著け、救の
望の兜をかむりて慎むべし。九 されど神は我らを怒に遭せんとにあらず、主イエス・キリストに頼りて救を得さ
せんと定め給へるなり。一〇 主の我等のために死に給へるは、我等をして寤めをも眠りををも己と共に生く
ることを得しめん爲なり。一一 此の故に互に勧めて各自の徳を建つべし、これ汝らが常に爲す所なり。
一二 兄弟よ、汝らに求む。なんぢらの中に勞し、主にありて汝らを治め、汝らを訓戒する者を重んじ、一三 その
勤勞によりて厚く之を愛し敬へ、また互に相和ぐべし。一四 兄弟よ、汝らに勧む、妄なる者を訓戒し、落膽せし者
を勵し、弱き者を助け、凡ての人に對して寛容なれ。一五 誰も人に對し惡をもて惡に報いぬやう慎め。ただ相互
に、また凡ての人に對して常に善を追ひ求めよ。一六 常に喜べ、一七 絶えず祈れ、一八 凡てのこと感謝せよ、これキリ
スト・イエスに由りて神の汝らに求め給ふ所なり。一九 御靈を熄すな、二〇 預言を蔑すな、二一 凡てのこと試みて善き

三 ものを守り、三 凡て悪の類に遠ざかれ。

三 願くは平和の神、みづから汝らを全く潔くし、汝らの靈と心と體とを全く守りて、我らの主イエス・キリ

二四 ストの來り給ふとき責むべき所なからしめ給はん事を。二四 汝らを召したまふ者は眞實なれば、之を成し給ふべし。

二五 兄弟よ、我らのために祈れ。

二六 二六 兄弟よ、我らのために祈れ。二六 主によりて汝らに命ず、この書を凡ての兄弟に讀み聞かせよ。

よ。

二八 願くは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらと偕に在らんことを。

テサロニケ人への前の書 をはり

イ羅一五・三三を見よ	ホ彼後三・一四 雅一	・一 來一三・二八	撒後三・一八
ロ撒前三・一一を見よ	・四を見よ	リ羅一六・一六を見よ	
ハ(路一・四六、四七	ハ撒前二・一二を見よ	又西四・一六を見よ	
來四・一二)	ト哥前一・九を見よ	ル徒一・一五を見よ	
ニ撒前二・一九を見よ	チ弗六・二〇 撒後三	ヲ羅一六・二〇を見よ	